

新堰の上流部が間もなく対岸と手を結ぶ。ベスード側護岸沿いを流れる河道 2B は、砂利堆積によって浅くなり、夏の高水位時だけ流れる。ベスード護岸の樹林帯が美しく、散歩に来る家族連れが絶えない。周辺で魚を食べさせるレストランが多数繁盛している。2018 年 2 月 8 日





同下流側。砂州 1 の下流端の背面が河道 2A に相当する。年々背後から洗堀され、河道 1 からは洪水流が表面を洗い流してきていた。今回は砂州 1 の下流端を堰と一体化させ、強化を図るもの。従って、実際の洪水時越流幅は 300~400m と見ている。2018 年 2 月 8 日





堰の下流端を下流側から見る。ここで砂吐、洪水吐、河道 2A の流れが合し、深い河床を形成する。おそらく、堰下流端を護るため堰が年々下流側へ継ぎ足され、将来的に堰長は長くなっていく。現山田堰の石張りは物量から考えても一年で出来たものではなく、長年の改修の繰り返しで出来たものだ。2018 年 2 月 6 日





堰上流側前縁。巨礫輸送の交通性を確保するために砂利で覆っているが、ひと夏過ぎると砂利は流され、巨礫間を詰めて堰体を強化する。2018年2月8日





上記作業地点を下流側から見る。正面の山はケシュマンド山系（ダラエヌール）、この時期にこんな薄い白雪は見なかった。2018年2月8日



造成中の堰